

令和5年度第一学期の終業式にあたり、一言お話をしたいと思います。

はじめに、72日間の1学期でしたが、各学年ともに、それぞれの目標に向かって本気で取り組んだ学期だったと思います。今年度のスタートにあたり、キーワードを「挑戦」と「感謝」と伝えました。失敗を恐れず挑戦すること、何事にも感謝の気持ちを持つ謙虚さが大切であることを話しました。どうだったでしょうか。

修学旅行や学習旅行をはじめとした様々な行事や中体連などの対外的な活動が行われました。各学級では学級委員長、副委員長を中心に、部活動では部長を中心に、どちらも組織を向上させようと献身的に努力する姿が見られました。

その中で、みなさんに紹介したいのは、2つ。まず男子バスケットボール部の市中体連大会です。相手はシード校大槻中、第2クォーター終了段階で13点差を追いかける展開。個人のスキルは、大槻中が優れているため追いつくのも難しい状況でしたが第4クォーター残り1分で59対58、ついに逆転。会場にいる人すべてが釘付けになり、割れんばかりの熱気。そこには一貫した戦術を示す監督、その指示を忠実にプレーする選手、最後まで走り切る粘り強さを見ることができました。最後は逆転され、悔し涙を流しましたが、やればできる、そう教えてくれた見事な試合でした。この試合の経験が無駄にしないよう、これからの学校生活をしっかり送ることを期待します。

もう一つは、陸上部3年2組高橋南帆さんです。昨年の市中体連陸上競技2年女子100m決勝、14秒19第4位、県大会出場と思われたが1,000分の1まで同タイムにより、県大会出場権は抽選に。抽選に外れ、惜しくも県大会出場ならず。悔し涙を流しました。今年の県中地区陸上競技3年女子100m、13秒29、昨年度より1秒近くタイムを更新し、3位で県大会へ。県大会では決勝まで進み、見事、5位入賞。この1年間、苦しかったと思います。しかし、1年前の悔しさを忘れず、コツコツと地道な練習に励み、また、しっかりと学校生活を送ったことで目標達成に近づくことができたのではないのでしょうか。

この2つの事例でわかるように、勝つための近道はありません。何事も最後まであきらめず挑戦し続ける気持ちと部活動は学校生活の一部であり生活面の重要性を認識しながら、周りの声に耳を傾け、素直な気持ちで学校生活を送る謙虚さを持ち続けることが大切です。

夏休み中には、中体連県大会、東北大会、全国大会そして市合唱祭等の音楽関係の各種コンクールなどが開催されます。今、お話ししたことを実践し、大いに力を発揮してください。

次に、本校の教育目標「自学」「共生」「自立」に関して振り返ると、良かった点は、学習を頑張っている生徒が多くなってきていること、生徒会が中心となってあいさつ運動を実践していること、また、清掃への取り組みも大変良くなっています。一人一人の意識が変わることで学校が変わる。五中生ならできると思っています。

一方で、トイレの正しい使い方や、学校の備品等を大切に扱うこと、人の話を最後までしっかり聞くことなどについては、課題もありました。しかし、この課題も、みんなが気持ちよく学校生活が送れるように、一人一人が注意すれば改善できるものです。2学期は、522名全員が安心して、安全に、そして楽しく学校生活が送ることができるよう、期待しています。

さて、明日から35日間の夏休みです。この夏休み中の努力は、必ず2学期以降に成果として返ってきます。各学年により目標は違うと思いますが、特に、3年生については、夏休みの学習の成果が、進路目標実現に直結しますので、一日一日を大切にしてください。この他に、対外的なものとしては、市合唱祭、長崎派遣事業、英語弁論大会や部活動、駅伝の練習など、様々ありますが、長い休み中だからこそできることにも積極的に取り組んでみてください。

最後になりますが、この夏休み中、家族で出かけることもあるかと思います。すべての行動に責任を持ち、自分自身で善し悪しを判断し行動する、そして、事故やケガのない充実した夏休みにしてください。2学期、元気にみなさんに会うことを楽しみにしています。